

## 九後教授最終講義

### 【 九後太一 教授 退職記念講演会（最終講義） 】

本学理学部 九後太一教授 が本年 3 月をもって定年退職を迎えられます。

先生は、これまで素粒子物理学をご専門に研究・教育をおこなってこられました。理学部では、九後先生のご退職に先立ち、下記の記念講演会（最終講義）を開催いたします。是非ともご聴講いただきたく、学生、職員、教員をはじめ多くの方々の参加をお待ちしております。

日時 2019 年 2 月 7 日（木） 15 : 00 頃～  
場所 京都産業大学 12 号館 12304 教室  
講演者 本学 理学部物理科学科 九後太一 教授  
演題 「消えた真空エネルギー」  
対象 本学学生、教職員、一般  
申込 事前申込不要・入場無料

#### 概要

素粒子の標準理論では、現在「暗黒エネルギー」という名で観測されている宇宙定数より 50 桁以上大きな絶対値の（負の）真空エネルギーの存在が予想される。しかし宇宙定数として効くはずのその莫大な素粒子の真空エネルギーは、アインシュタイン重力理論には全く効いていない。これが「宇宙定数問題」と呼ばれる難問である。この講演では、もし「この世界の基礎理論がスケール不変性を持つ」（重力のプランクスケール以下の現実のスケールは全てスケール不変性の自発的破れによって生じる、と考える）なら、この難問が解決する可能性があることを説明したい。